

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



危機管理はチャンスと裏表 ～海外赴任の方へおくる言葉～

札幌市教育文化会館 元館長 井上 隆志

ニューヨーク、ロンドン、パリ、シンガポール、ソウル、シドニー、北京、まさに激動の只中です。“10年はひと昔”、2003年4月首都空港に立った大昔を思い起こしています。当時は「5年ひと昔」の様相。今は各国各市とも、駐在2年が「ひと昔」のスピードでしょう。

国際業務で得られたこと

最大のものは危機管理への対処です。第2次イラク戦争勃発の最中、成田を立ち、「脱北」騒ぎの北京に着くや否や、SARS（新型肺炎）で事務所機能の一時停止。終息後、圧縮された行事日程でクリア数々のミッション。年明けには鳥インフルエンザ発生を尻目に広西チワン族自治区でのフォーラム開催 etc。国内では、尖閣列島（釣魚島）上陸問題、サッカー場での騒ぎ、帰国間際には日本大使館前での反日運動等々。事務所内にあつては、ローカル・スタッフの派遣元切替え（政府系から民間）、事務所人員枠の拡大（外交部認可事項）など、何でもありの状況でした。まさに「危機管理」対応そのものでした。

迫る困難はいつも想定外で、問題解決、仕事をこなす術は、事の大小、重要度に関係なく、「危機管理」と看做し胆を据える次第と相成りました！請売りになりますが、以下、「四つのワーク」に集約されます。

- 一、チームワーク 組織力（グループ・パワー）
- 一、ネットワーク 人間力（コミュニケーション）
- 一、フィールドワーク 現場力（下意上達）
- 一、フットワーク 機動力（柔軟性）

危機は確かにリスク（危険）ですが、チャンス（機会）でもあります。研鑽の絶好の機会と捉え、プラス思考で踏ん張ってください。陰ながらエールを送ります。

外から内を観ること

「郷に入っては郷に従え」とは、よくしたもので、スケジュールなど直前まで決まらない、ドタキャンありの

世界。本部からの催促に当初は胃が痛くなりました。「表敬訪問」との観念は没有！地方政府にアテンドする時もランクに気を使います（面子）。しかし、対外折衝より難しいのは、むしろ本部あるいは派遣元との調整であったりします。異なる言語間ではお互い理解に努めますが、同じだと“何故わからない”となるのです。さらに、「伝えるコト」をしっかり持合せていなければなりません。また、生活時間・空間を現地に置くことで、「地場」というか「磁場」というか、丸ごと皮膚呼吸で取り込み可能です。日本でのニュース報道とのギャップや非常時に垣間見るその国の素顔、それらの体験・経験が育む“コンピューター”は、ネット・SNSが世界を覆う今日、意外な陥穽に落ち込むことなく、自分なりに情報処理し組み立てることに役立ちます。目減り無しの財産です。

帰国してからのこと

人事は儘ならないもので、海外勤務を直接活かす職場は叶いませんでしたが、一介の地方公務員として本分を全う出来たと思っています。その中で、クリアでの仕事は「華」でした。

後年、白酒（度数の高い蒸留酒）の後遺症？か、急性膵臓炎を患いました。中国情報については、地元紙と日経新聞を切り抜く毎日です。



2010年10月 北京時代の仕事仲間宅で旧交を温める
（日中友好協会創立60周年北京訪問）

プロフィール

1975年7月～2010年3月：札幌市職員
2010年4月～2015年6月：（公財）札幌市芸術文化財団職員
●クリア時代の所属
2002年10月～2003年3月 クリア東京本部 調査役
2003年4月～2005年3月 クリア北京事務所 次長